

徳島市民病院だより



徳島市民病院の理念

「思いやり・信頼・安心」

〒770-0812 徳島市北常三島町2丁目34番地 徳島市民病院
Tel(088)622-5121(代表)

平成29年

12号

平成29年3月

看護の心 明日を見つめて

看護部長 浅田 洋子

国が進めている地域包括ケアシステムの構築の推進により、病院を取り巻く環境は病院完結型から地域完結型医療への転換期を迎え、あらためて看護職間の連携が注目をされています。高齢になっても住み慣れた地域で最期まで暮らせるような包括的支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)です。制度の導入に伴い、医療依存度の高い高齢者の在宅生活を支えるなど、看護職は重要な役割を占めることとなります。看護職だからこそ適切なケアを提供し、さらには必要なサービスや多職種をつなぎ、高齢者の生活を支えることができるとも考えます。

地域完結型を目標に

平成28年4月に立ち上げた患者支援センターでは看護職としての役割の一つとして、入院・退院支援業務に携わっています。「退院支援」については、外来受診時から始まるため、そのシステムの構築が必須となります。そのため退院支援機能強化への取り組みとして、病棟に「退院支援看護師」を配置しソーシャルワーカー、病棟看護師などで連携し支援件数の増加に努めたいと考えています。「退院支援看護師」は院内や地域の動きを把握したうえで、院内外の関係部門と

連絡調整などを行います。患者の皆さんが安心して地域へ復帰し、在宅療養生活を続けていくため、入院中から退院後まで多職種が継続して関わっていただけるよう、医療・福祉・地域を結びつける役割を担うこととなります。

一方で看護の最前線は「患者に触れる現場」であり、毎日何かしらのことが起き、悩み、解決しの繰り返しになっています。「患者中心」で考えていけば必ず必要な医療・看護にたどりつき、それが自らの仕事に対する糧になることに加え、病院経営の安定につながるものと信じています。

これからの看護は医療の質だけでなく、生活の質もという視点で考えることが重要です。医療と生活、

それぞれの点と点をいかにつなぐかが看護師の最重要課題と考えます。それは在宅を見据えた支援であり、その人らしく暮らしていきけるよう看護師の役割を果たしていきたいと思います。



▲師長ミーティングの様子

がん豆知識 ⑥

喫煙が及ぼす発がんへの影響は、様々ながんにおいて指摘されています。肺がんをはじめとして、咽頭・喉頭がん、食道がん、胃がんなどが有名ですが、膀胱がんでも1日10本以上の喫煙で罹患リスクが約4倍になると言われています。一方で禁煙により罹患リスクは低下し、5年の禁煙で約3倍に、10年以上の禁煙で約2倍にまでリスクは低下するとされています。膀胱がんと一度診断された方も、再発予防のため術後に改めて禁煙を指導しています。

膀胱がん

膀胱がんが発見される契機となる主な症状は、血尿と膀胱刺激症状(頻尿、排尿時痛、残尿感)です。無症候性肉眼血尿を主訴とする患者さんの約2割が、また顕微鏡的血尿(尿沈渣でのみ指摘される血尿)では約5%が膀胱がんと診断されます。特に50歳以上の方で、血尿や喫煙歴、何かしらの排尿症状のある方は、一度泌尿器科への受診をお勧めしています。尿検査や尿細胞診検査、腹部超音波検査などの非侵襲的な検査で異常を認めた場合に、追加で膀胱鏡検査やCT検査を施行していきます。

(泌尿器科 尾崎啓介)

認定看護師 新たに3人誕生!!

救急看護認定看護師

猪子美由紀さん（所属：救急室勤務）
救急医がいなくても救急患者さんを助けたい。それが救急看護認定看護師を志望したきっかけでした。救急看護とは「突発的な外傷、急性疾患、慢性疾患の急性増悪などのさまざまな状況によって、救急処置が必要な対象に実施される看護活動」です。

院内急変、病院前救護、災害救急医療、学校保健、産業看護などの場にも救急看護実践があると言われており、求められる役割を具体化し、自施設、そして地域に貢献したいと考えています。

院内での救急時の対応など、現場の疑問を気軽に相談していただけるような認定看護師になりたいと思います。まだまだすぐにお答えできないことも多いですが、皆さまと一緒に徳島市民病院の救急看護力をアップしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

徳島市民病院に新しく3人の認定看護師が誕生しました。既に認定資格取得済みの7人と合わせて全部で10人となりました。今回晴れて取得したのは乳がん看護認定看護師の森本美由樹さん、がん化学療法看護認定看護師の猪子美由紀さん、救急看護認定看護師の谷景子さんです。各分野での活躍が期待される3人の皆さんの業務内容と今後の抱負を紹介します。

乳がん看護認定看護師

谷 景子さん（所属：9階病棟勤務）

乳がんは女性罹患率第1位で年々増加傾向にあります。乳がん治療は手術療法・薬物療法・放射線療法などの治療を組み合わせを行い、患者は術式選択など自己選択の機会が増え、患者自身が疾患や治療の理解を深めなければ選択できない状況になっています。

乳がん看護認定看護師は、意思決定支援や術後のセルフケア支援、乳房の補整についての情報提供などを行い、患者が納得し安心して治療を受けられるよう援助していく役割があります。また、乳がん治療は長期にわたるため、家族や患者を取り巻く周囲への関わりも必要です。

他職種とも情報共有し、連携を図り、橋渡しの役割も担えるように取り組んでいきたいと思っています。まだまだ未熟ですが、今後ともよろしくお願ひ致します。



猪子美由紀さん 森本美由樹さん 谷 景子さん

がん化学療法看護認定看護師

森本美由樹さん（所属：化学療法室勤務）

この度、半年間の研修を終え、日本看護協会神戸研修センターを卒業し、がん化学療法看護認定看護師の資格を得ることができました。がん化学療法看護認定看護師の主な役割は、がん化学療法薬の安全な取り扱いと適切な投与管理、副作用症状の緩和およびセルフケア支援などが挙げられます。病棟、外来を問わず、がん患者さんに安心して治療を受けて頂くことを目標にしています。

現在も勉強中の身ではありますが、多職種のスタッフの方々と連携しながら、がん化学療法を受けられる患者さんの個別性に対応した看護を提供していきたいと思っています。がん患者さんの思いに寄り添い、前向きな気持ちで治療を受けて頂けるよう、日々取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

母乳外来 始めました。

産後のおっぱいや育児に関する不安に応える「母乳外来」が昨年9月から産婦人科外来でスタートしました。

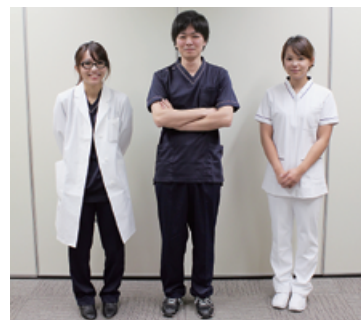
助産師が乳房ケア、赤ちゃんの体重チェック、育児相談などを行います。

外来診療日：火曜日・木曜日
午後1時30分～3時30分
(完全予約制) 1日2人
※お一人様1時間程度
予約方法：産婦人科外来受付にご連絡
ください。
費用：1回2100円

白衣刷新 4月から着用開始

徳島市民病院の医療スタッフが使用している白衣が平成29年4月から新デザインの白衣に変更となります。新しい白衣は全ての上衣の左腕に病院ロゴが印刷されています。

病院ロゴは徳島市民病院（Tokushima Municipal Hospital）の頭文字TMHをあしらった、既におなじみのデザインです。医師・薬剤師・技師の皆さんは診察衣・ケーシーに加えてスクラブも選択可能となりました。



がん・糖尿病 克服願って 全国規模の行事に参加

がんや糖尿病の克服にむけた取り組みにもっと関心を持ってもらうことを目的とした2つのキャンペーンに、徳島市民病院は本年度も積極的に参加しました。「リレーフォーライフ」と「世界糖尿病デー」にちなんで行われたイベントの様子をご紹介します

リレー・フォー・ライフ 多くの市民が来場

「リレーフォーライフ」が昨年10月1、2日に徳島市の東新町商店街アーケード内で開催され、徳島市民病院も参加しました。当院は今年で7回目の参加となります。当院職員、一般を含め90人を超える方が市民病院ブースに来場しました。



世界糖尿病デー 健康相談や講演会開催

市民病院ブースでの今年の催しとして、リハビリテーション科土田敬副技師長による「がんのリハビリテーション」の講演と、バルーンアーティストの実施しました。土田副技師長の講演は約30人の参加者がブース内を埋め尽くしました。また、バルーンアーティストは子どもから大人までたくさんの方でにぎわい、参加者同士の交流の場となりました。毎年実施している24時間リレーウォークも旗を新調して参加。大勢の参加者のご協力のもと、今年も24時間旗をつなぐことができました。

国連の呼びかけで2006年に制定された「世界糖尿病デー」(11月14日)にちなんで、徳島市民病院でも2つのイベントが11月8日に開催されました。午前中は糖尿病に関する健康相談や血糖測定、午後は運動実技と講演がありました。

1階薬剤部前のロビーでは栄養・お薬・歯科の各相談と血糖値測定コーナーが設けられ、管理栄養士、看護師、口腔ケアスタッフらが対応しました。延べ130人を超す来院患者さんが三々五々相談に訪れていました。実際に測った血糖値を基にどんな食事が

よいのかなど、専門スタッフのアドバイスを受けました。午後は予定していた恒例の吉野川河川敷ウォークが雨で中止となり、屋内での講演会に変更。理学療法士による室内でできる手軽な体操実技の指導と、井野口卓内科主任医長の「糖尿病についての講演」が行われました。



「がん治療」の講演と、バルーンアーティストの実施しました。土田副技師長の講演は約30人の参加者がブース内を埋め尽くしました。また、バルーンアーティストは子どもから大人までたくさんの方でにぎわい、参加者同士の交流の場となりました。毎年実施している24時間リレーウォークも旗を新調して参加。大勢の参加者のご協力のもと、今年も24時間旗をつなぐことができました。

がん治療 整形疾患と糖尿病 テーマに 市民公開講座 9月・11月に開催

徳島市民病院の市民公開講座が昨年9月と11月にふれあい健康館で開かれ、多くの市民が各3人の講師の話に耳を傾けました。

9月11日に開かれた平成28年度第2回講座の共通テーマは「がん治療」。最初に登壇した柿内聡司・内科主任医長兼がんセンター副センター長の演題は「最新のがん免疫療法」で免疫抑制剤を抑える「」。続いて土田敬・リハビリテーション科理学療法士が「がんのリハビリテーション」の講演と、バルーンアーティストの実施しました。土田副技師長の講演は約30人の参加者がブース内を埋め尽くしました。また、バルーンアーティストは子どもから大人までたくさんの方でにぎわい、参加者同士の交流の場となりました。毎年実施している24時間リレーウォークも旗を新調して参加。大勢の参加者のご協力のもと、今年も24時間旗をつなぐことができました。

また、11月5日に行われた第3回講座は「整形疾患と糖尿病」をテーマに開かれました。鹿島正弘整形外科主任医長が「くびの病氣」、松村肇彦整形外科医師は「腰痛について」、井野口卓内科主任医長は「糖尿病教室」と題して講演しました。司会進行は古本孝博副院長が務めました。

フ歯科医師が「がん治療と口腔ケア」と題して講演しました。講演後の質疑など司会進行は渡辺滋夫副院長が担当しました。

第29回徳島市民病院 地域医療連携会の日程が決まりました!!

連携医の方々と徳島市民病院との懇親を深め、地域連携事業の充実を図るため、下記の日程で講演会と懇親会を開催いたします。

日時：7月6日(木) 19時～
場所：阿波観光ホテル



※後日改めて案内文をお送りいたしますので、是非ご出席いただきますようお願いいたします。



小児科主任 医長

山上 貴司

1. はじめに

金子みすゞの詩集「私と小鳥と鈴と」にある『みんなちがって、みんないい』という一節に共感や感銘を受ける方は少なくないと思います。そして、多くの方は『違う』ことを良い『個性』として扱っています。

一方、童話「みにくいアヒルの子」では、アヒルより立派に成長する白鳥はアヒルと『違う』だけでいじめられ、辛い少年時代を過ごしています。早い時期に、アヒルではなく白鳥の子どもと気づいてあげられたら良かったのと思うのは私だけでしょうか。

同世代の他の子どもと比べて、自分の子どもの発達で、『ちよつと気になる』ことを感じられている保護者の方は少なくありません。文部科学省の調査によると通常学級で発達が気になる子どもは6〜7%見受けられ、支援学校や支援学級の子どもと合わせると約10%弱のお子さんが発達障害を疑わせる症状を有しています。

今回、ちよつと気になる子ども

も発達障害についてのお話をしたいと思います。

2. 発達障害とは...

現在、社会性に問題のある自閉症スペクトラム(ASD)、行動面に問題のある注意欠陥多動障害(ADHD)、学習面に問題のある学習障害(LD)の3疾患が主な発達障害として取り扱われています。

①自閉症スペクトラム(ASD)
当初は、広汎性発達障害と分類されていましたが、最近ではASDとして分類されるようになりました。

ASDでは、言語の遅れのために自分の気持ちを相手に伝えることや相手の気持ちを配慮することが苦手上に、こだわりが強く融通が利かないことも重なりコミュニケーションがうまく取れずに様々なトラブルを起こします。幼少期は言語の遅れ、一人遊び、友達と遊ぶことが苦手ななどのトラブルを起こすことも少なくありません。『10歳の壁』と呼ばれる小学4〜5年時代は、子ども同士のかかわりが増え、トラブルも急増、いじめや不登校などが最

も多い年代になります。コミュニケーションに問題を感じられるお子さんは、幼稚園から小学校低学年の早期に社会性を育むソーシャルスキルトレーニングを開始することが大切になります。

②注意欠陥多動性障害(ADHD)
ADHDは忘れ物が多いなどの『不注意』、落ち着きがなくなり、じつとしていことができない『多動性』、唐突な行動や並んで順番を待てない『衝動性』の三つに分類されます。

『多動・衝動性』の症状は小学校低学年までは目立ちますが、10歳以降ではその症状は軽減します。反面、不適切な対応が持続すると衝動性が強まり、粗暴な行為、時に非行に及ぶこともあります。

『不注意』が幼少期に問題視されることは少なく、高校受験時に大きな困難を生じることになります。将来の進学を考慮し、早期の不注意への対応は重要になってきます。

③学習障害(LD)
LDは一般的な知能レベルは正常域だが、読む・書く・計算・推論する等の特定の能力が低下している場合に診断されます。特に、読字障害では、文字を読むことが難しく、単語や文章の

意味を理解が困難で国語以外の学力にも問題を生じることになります。

④第四の発達障害
前述に挙げた3つの発達障害と類似する疾患として、軽度な知的障害や虐待などによる愛着形成障害も同様の症状を呈する場合があります。注意とそれに応じた適切な対応が必要となります。

3. 発達障害とその保護者への対応
どのような子どもを発達障害と診断するのでしょうか。前述のような特徴的な症状を有するだけでなく、それらの特性により様々な場面で問題が生じ、その子どもにも多くの支援を要する場合に発達障害と診断されます。逆に言うと、それらの特性を有しても環境整備により問題が解決される場合は、発達障害ではなく、個性として対応されることとなります。発達障害は適切な対応により発症予防可能な疾患とすることができま

す。保護者の方は発達障害と診断されることに恐れを感じているのではなく、他の子どもと『違う』と診断されることに恐怖を感じているように思われます。他の子どもと『違う』だけなら、発達障害は『個性』として扱われ、不安や恐れは強くないと思われ

ます。障害の『障』は区切りを意味し、健常児と異なる空間に区切られることに不安を感じられます。一方、『害』は家の中の困り事などを表し、分かち合いたいことを意味します。私は、『障がい』より『しよう害』と記載した方が、保護者の気持ちにより寄り添っていられると考えています。

4. 当院小児科における発達障害への対応

前述のように、発達障害は社会性や行動面及び学習面に問題があり、医療だけで解決することとは困難である。そこで、医療は子どもたちが生活する家庭や地域社会及び幼稚園や各種学校と連携した対応が重要になります。

診断や治療の目的は、子どもたちの欠点や問題点を減らすのではなく、長所や健やかな発育・発達を伸ばすことが大切であると考えています。

当院では、カウンセリング及び診断や検査により保護者や子どもたちがその特性を理解し、適切な対応がなされるような治療を心掛けています。診療は中学生以下が対象で、水曜日の午前に小児科外来で行っています。なお、外来は予約制でかかりつけ医からの紹介が必要になります。

編集:徳島市民病院 広報管理室 TEL(088)622-5121(内線2333・2103) 印刷:星印刷株式会社 〒770-0936 徳島市中央通2丁目19番地 TEL(088)652-7508